

## 弘法大師ご誕生1250年記念法会の開催に寄せて

令和5年は、弘法大師空海上人（お大師さま）のご誕生されて1250年を迎えております。真言宗の各本山では50年に一度の大祭が行われ、勝福寺におきましても、青葉薫るこの好季に「光れいのち」というスローガンを掲げ、6月12日から18日の予定で記念法会を開催いたします。私は幼少よりお大師さまが好きで、この度の慶事に携われることを大変有難く思っておりますが、これは私だけの感ではなく、お大師さまをご信仰されるすべてのの方々喜びでもあります。皆さま、何かとご多用と存じますが、ご都合の良い日には是非ご参拝ください。

お大師さまは、宝亀5年（774）6月15日の明け方、讃岐国多度郡屏風ヶ浦（香川県善通寺市）において、父・佐伯善通卿と母・玉依御前の間にお生まれになりました。時代は奈良末期、都の繁栄は過ぎ去りつつあり、政治・経済の混乱に伴って地方の民衆は貧しい暮らしがりの様相を見せておりました。お大師さまのご誕生について高野大師御伝には「父母の夢に聖人、天竺より飛来して懐に入って妊娠し、十二か月を経て誕生す」と伝えられています。一説に、この天竺（インド）の聖僧は密教第六祖の、不空三藏とも言われておりますが、夢に現れた天竺の聖僧とお大師さまのご誕生が意味するところは、暗影の世に光明が差し込むが如く、多くの人々をお救いすることが運命づけられていたと思わずにはおられません。

お大師さまの幼少の御名を真魚さまと申します。とても聡明なお方で、また周囲には不思議なことが度々起こるので、父君・母君からは「貴物」或いは「神童」と号されるほどでした。お大師さまの遺誠である『御遺告』に「五、六歳の頃、夢に常に八葉蓮華の中に居坐して諸仏と共に語ると見き」という一節があります。日々の遊びは、誰に教えられるでもなく泥をこねて仏像を作り、草木を集めてこしらえたお堂で一心に礼拝していたと伝えられています。恐らく、ご自身仏縁の大変深いことを知っておられ、世間の様相も敏感に感じておられたであろう真魚さまは、「世を救い、人々を幸せに導きたい」と念じておられたものと推察されるのです。

さて、勝福寺では令和3年に稚児大師像（楠/H210mm W170mm D155mm/総高330mm）をお作りし、この度の機に開眼が迎えられることを有難く思います。この像は、幼少のお大師さまが夢のなかで諸仏と共に語り合う様子を表現したものです。のちに、日本の歴史においても多大な功績を遺され、衆生救済の為に生涯を捧げられた偉大なお大師さまですから、像の制作にあたり信仰対象としての相応しい崇高さと気品を所望しておりました。やがて、仏師さまと勝縁を得て見事に完成しました。

智慧と慈悲心に満ち溢れた稚児大師さまと向き合いますと、きっと清浄な気持ちに満ち溢れることでしょう。私たちのいのちは、ご先祖さまから連続と受け継いだ唯一無二の結晶であります。本法会を通じて、皆さま一人一人のかけがえのない人生が光り耀く一助となることを願っています。

最後に、法会の期間中は住職の私が至らぬゆえに、行き届かぬ点多々あるうかと存じますが、ご参拝の皆さまと共ににお大師さまのご誕生をお祝いいたしたく存じます。また、法会の開催にあたり多大なご協力をいただきました下道結集寺院さまを始め檀信徒並びに関係各位、そして、稚児大師像の彫刻を快くお受けくださった仏師さまには心から厚く御礼申し上げます。

皆さまのご健康とご多幸をご祈念し、開催の挨拶いたします。 合掌

令和5年5月吉祥日

勝福寺住職（第26世） 江原 義空 拝

イラスト/豊永洋さん



真言宗 御室派

徹林山 勝福寺

〒710-1201 岡山県総社市久代3438

TEL : 0866-96-0615 FAX : 0866-96-2233

吉備四国霊場第75番札所

